

令和5年度 学校運営連絡協議会 実施報告書

1 組織

- (1) 都立板橋高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
事務局の構成 主任教諭(保健庶務部主任)=事務局長、副校長 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、保健庶務主任、情報管理部主任、3学年主任、2学年主任、1学年主任、 計11名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授）、近隣中学校長（2名）、近隣小学校長、近隣町会長、本校同窓会長、本校PTA会長 計7名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月30日（金）
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、前年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和5年11月24日（金）
内部委員11名、協議委員6名
今年度教育活動に関する報告、協議委員からの質問・意見、学校評価アンケート内容の検討
 - 第3回 令和6年2月9日（金）
学校評価アンケート結果報告及び学校運営に関する提言・協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年11月24日（金）内部委員1名、評価委員2名
学校評価方針の確認、学校評価アンケート実施計画の確認、同アンケート観点・項目等の検討
 - 第2回 令和6年2月9日（金）内部委員1名、評価委員2名
学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・ 12月 全校生徒 対象：851人 回収：723人 回収率：85%
 - ・ 12月 保護者全員 対象：851人 回収：348人 回収率：41%
 - ・ 1月 地域・住民 対象：27人 回収：14人 回収率：52%
 - ・ 12月 教職員 対象：51人 回収：51人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・ 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、ライフワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要
 - ※ 生徒・保護者・教員の肯定的回答の比較
 - ①よくあてはまる ②まああてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない
 - の4択でアンケートを行い、「①よくあてはまる」、「②まああてはまる」を肯定的回答として集計を行った。

1 私は、学校生活に満足している。（生徒）

- 生徒は、学校生活に満足している。(保護者)
学校は、生徒の学校生活満足度を高める取組をしている。(教員)
生徒：74.1% 保護者：88.3% 教員：88.3%
- 2 私は、主体的に学習に取り組んでいる。(生徒)
生徒は、主体的に学習に取り組んでいる。(保護者)
生徒は、主体的に学習に取り組んでいる。(教員)
生徒：58.3% 保護者：63.0% 教員：86.3%
- 3 私は、授業での学習内容を理解し、定期考査等にきちんと取り組むことができている。(生徒)
生徒は、授業での学習内容を理解し、定期考査等にきちんと取り組むことができている。(保護者)
生徒は、授業での学習内容を理解し、定期考査等にきちんと取り組むことができている。(教員)
生徒：67.3% 保護者：69.3% 教員：86.3%
- 4 先生は、生徒の学力向上を図る授業を行っている。(生徒)
学校は、生徒の学力向上を図る授業を行っている。(保護者)
学校は、生徒の学力向上を図る授業を行っている。(教員)
生徒：69.8% 保護者：69.5% 教員：80.3%
- 5 本校の学校行事や生徒会活動は充実している。(生徒)
本校の学校行事や生徒会活動は充実している。(保護者)
学校は、学校行事や生徒会活動の充実を図る指導を行っている。(教員)
生徒：70.6% 保護者：84.8% 教員：86.2%
- 6 本校の部活動は充実している。(生徒)
本校の部活動は充実している。(保護者)
学校は、部活動の充実を図る指導を行っている。(教員)
生徒：71.0% 保護者：83.1% 教員：90.2%
- 7 私は、遅刻をしないように時間を守っている。(生徒)
生徒は、遅刻をしないように、時間を守っている。(保護者)
学校は、時間を守る指導を行っている。(教員)
生徒：73.0% 保護者：83.6% 教員：84.3%
- 8 私は、高校生としてふさわしい身だしなみができている。(生徒)
生徒は、高校生としてふさわしい身だしなみができている。(保護者)
学校は、高校生としてふさわしい身だしなみ指導を行っている。(教員)
生徒：80.5% 保護者：88.8% 教員：76.5%
- 9 私は、学校に相談したい時、気軽に相談することができている。(生徒)
保護者として学校に相談したい時、気軽に相談することができる。(保護者)
教職員は、生徒や保護者からの相談に丁寧に対応している。(教員)
生徒：60.2% 保護者：63.7% 教員：98.0%
- 10 学校は、生徒の進路希望実現に向けた指導を行っている。(生徒)
生徒の進路希望実現に向けた指導を行っている。(保護者)
学校は、生徒の進路希望実現に向けた指導を行っている。(教員)
生徒：76.8% 保護者：75.9% 教員：94.1%
- 11 学校は、いじめ問題解決に向けた指導を行っている。(生徒)
学校は、いじめ問題解決に向けた指導を行っている。(保護者)

学校は、いじめ問題の解決に向けた指導を行っている。(教員)

生徒：69.8% 保護者：72.7% 教員：94.1%

12 学校は、体罰根絶に向けた指導を行っている。(生徒)

学校は、体罰根絶に向けた指導を行っている。(保護者)

学校は、体罰根絶に向けた指導を行っている。(教員)

生徒：72.0% 保護者：82.2% 教員：90.2%

13 学校は、保護者と連携を図っている。(保護者)

学校は、保護者との連携を図っている。(教員)

保護者：66.1% 教員：94.1%

14 オンライン学習デーには、自宅でオンライン授業に取り組むことができる。(生徒)

オンライン学習デーには、生徒は自宅でオンライン授業に取り組むことができる。(保護者)

学校は、生徒が自宅でオンライン授業に取り組むことができる体制を整えている。(教員)

生徒：72.8% 保護者：73.8% 教員：60.8%

15 学校は、教職員のライフ・ワーク・バランス実現のため、学校閉庁日の設定、勤務時間の複数割振り、校務支援システム・部活動指導員・テレワーク導入等、業務の効率化を推進している。

(保護者)

学校は、教職員のライフ・ワーク・バランス実現のため、学校閉庁日の設定、勤務時間の複数割振り、校務支援システム・部活動指導員・テレワーク導入等、業務の効率化を推進している。

(教員)

保護者：77.6% 教員：47.1%

16 授業外（補習予備校なども含む）での1日の平均学習時間（定期試験前を除く）は次のうち、どれですか？(生徒)

お子様の、授業外（補習や予備校なども含む）での1日の平均学習時間（定期試験前を除く）は次のうち、どれですか？(保護者)

3時間以上	生徒：5.5%	保護者：3.4%
1時間以上3時間未満	生徒：9.4%	保護者：21.6%
30分以上1時間未満	生徒：7.5%	保護者：15.5%
30分未満	生徒：7.4%	保護者：9.5%
定期試験前のみ自宅で学習する	生徒：44.3%	保護者：41.7%
定期試験前もほとんど自宅学習はしない	生徒：10.8%	保護者：8.3%

17 特別進学クラスについてどう思いますか？(複数回答可)(生徒)

特別進学クラスについてどう思いますか？(複数回答可)(保護者)

大学進学に有利	生徒：25.1%	保護者：39.7%
クラスが落ち着いている	生徒：29.7%	保護者：19.0%
クラスに勉強する雰囲気がある	生徒：32.7%	保護者：35.1%
他のクラスより授業進度が速い	生徒：15.4%	保護者：12.1%
他のクラスより授業内容が難しい	生徒：15.4%	保護者：12.1%

【地域】 A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない E わからない

1 板橋高校の生徒は、生き生きとした学校生活を送っているようだ。

A 35.7% B 50.0% C 7.1% D 0.0% E 7.1%

2 板橋高校は、学校行事や部活動に活気があるようだ。

A 57.1% B 42.9% C 0.0% D 0.0% E 0.0%

3 生徒は、高校生としてふさわしい身だしなみができていると感じる。

A 21.4% B 57.1% C 7.1% D 14.3% E 0.0%

4 学校は地域の意見や要望を取り入れ、適切に対処している。

A 28.6% B 14.3% C 14.3% D 7.1% E 37.5%

5 板橋高校は、教職員のライフ・ワーク・バランス実現のため、学校閉庁日の設定、勤務時間の複数割振り、校務支援システム・部活動指導員・テレワーク導入等、業務の効率化を推進している。

A 21.4% B 35.7% C 7.1% D 0.0% E 35.7%

AB合わせた肯定的評価はおおむね横ばいであるが、学校行事・生徒会の充実では増加傾向が見られた。コロナ禍による制限が解除されたことが大きい。特に、授業や学校行事、部活動等で活動の制限を余儀なくされていたが、その反動で満足の度合いは高い傾向がある。また、生徒の満足感・充実感は減少傾向にある。生徒の主体的な学習姿勢は昨年度、本年度と増加していることから、生徒の学校での躍進が期待される。

今年度はアンケートの回答についてClassiを用いた。アンケートをWebで実施すると一般に回答率が下がる傾向があるが、本校保護者についても回答率は41%に止まった。

- 1 74%の生徒、88%の保護者が学校生活に満足していると回答している。生徒の満足度が10ポイント減少していることから生徒・保護者の学校生活へのニーズを把握し、CS（顧客満足）を向上させる観点から、教育活動の改善に取り組む必要がある。
- 2 生徒の主体的な学習姿勢は昨年度より減少しているが、令和3年度以前に比べ増加している。人間としての在り方生き方への自覚を高め、高校卒業後の進路希望実現に向け、自学自習の姿勢をより一層高めていきたい。
- 3 令和3年度より学習内容の理解度が高まってきている。わかる授業、生徒の興味・関心を高める授業を引き続き推進していく。
- 4 新学習指導要領実施2年目に当たり、ICT機器を活用した授業の工夫、一人1台端末を活用したWebテストや学習動画視聴等の自学自習支援、教員と生徒の間答の工夫による対話的で深い学びの実践等、生徒に育みたい資質や能力を明確にした指導方法の工夫による成果と考える。
- 5 7割の生徒が行事等の充実を実感しており、コロナ禍後の体育祭・文化祭全面実施が数字に表れている。
- 6 減少傾向にはあるが、関東大会・全国インターハイ出場を果たした陸上競技部の活躍をはじめ、勉強と部活動をともに頑張る文武両道を指導・実践した成果も出ている。
- 7 教員はチャイム教卓を心掛け、授業の開始、終了時刻を守る指導を行っていることから生徒の意識も向上させていきたい。
- 8 学校での身だしなみ指導においては、一部の生徒の化粧・ピアス指導に時間を割かれている。高校生の化粧等については中学校や地域等からの理解が得られていないこと、学業以外のことに気持ちが向いてしまうことのデメリットから、生活指導部を中心とした組織的・継続的な指導に取り組んでいる。
- 9 コンディション・レポート、Classiの通信機能を併用し、生徒のメンタルヘルスマネジメント、健康観察に取り組んでいる。ホームルーム担任をはじめ、SCやYSWによる面接を通して、生徒の悩み相談や自立支援体制の整備に努めている。
- 10 生徒の約半数が4年制大学に進学している現状を踏まえ、学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜で求められる学力等を育むとともに、面接や小論文指導に注力している。今後は一般選抜に挑む生徒の学力向上を図る指導に力を入れていく必要がある。
- 11 日常の生徒観察や年間3回のいじめアンケート実施を通して、いじめを見逃さない取組を行っている。
- 12 日常の校内研修を通して生徒への体罰・暴言の禁止を徹底するとともに、教員の人権感覚向上に努めている。
- 13 電話やClassiの通信機能を活用して保護者との連絡を密に取っているが、生徒の進路相談等においては、三者面談の実施等、きめ細かな対応を引き続き行っていく。
- 14 7割以上の生徒が適切に取り組んだ。今後も自己管理ができる体制を整備していく。
- 15 外部からは、教職員のライフ・ワーク・バランス実現のための取組が進んでいるように見えているが、教職員からの肯定的評価は半数程度である。会議時間の短縮等、業務の効率化を推進していく必要がある。
- 16 自宅学習に取り組まない生徒の割合は昨年度より減少しているが、まだまだ高い数値である。週末課題の設定等により改善方向に進んでいる。
- 17 大学進学に向けた学力向上、互いに高め合う学習集団の形成を意図した特進クラスの運営に引き続き、取り組んでいく。

地域

外部からは学校が活気付いていると評価されているが、生徒の身だしなみについては肯定的評価が低い。

この結果を改善指導に生かしていく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校の外から見えづらくなっている生徒の様子や教育活動について理解と共感、要望や課題を確認する貴重な情報交換の場となった。
- ・生徒による近隣清掃や挨拶運動、遅刻指導及び身だしなみについて、地域社会から好意的な声が上がっていることを再確認することができ、学校と地域社会との結び付きを実感できた。
- ・本校の教育活動についての意見交換と、学校評価アンケート結果についての分析や考察により、学校の取組みの成果と今後の方向性が明確になった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・進路指導については、生徒の実態や特性に応じて総合型選抜や学校推薦型選抜に対応することができたが、一般入試で対応するレベルの学力の向上に組織的に対応する必要性を確認した。
- ・生徒の実態に応じて、同窓会やPTA等と連携した進路講演会やワークショップを実施する等、系統的なキャリア教育を推進する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

地域行事や地域防災訓練に参加したり、学校で実施する防災訓練で町会等と連携したりする等、地域と一体となった学校経営に取り組む必要がある。

分掌内外で教員が協働していく機運を醸成し、組織力の向上を図る。

(2) 学習指導

「生徒に考えさせる」指導を推進し、授業での生徒への発問と生徒からの発言から「何ができるようになったか」を意識して授業改善を図っていく。また、自学自習をいかにして習慣付けていくか動機付けを工夫する。

(3) 特別活動

生徒の主体的な取組を行わせるために、教員がこまめな指導・支援を行う。

(4) 生活指導

身だしなみ指導の推進により、規律を意識して生きていく力を心がけさせる。

生徒には自律を教え、褒めて個性を伸ばす、探究学習を充実させ、生徒の自律の芽を育てる。

学校の教育相談体制は整備されてきた。生徒から観て相談できる先生にアクセスしやすい体制を構築するとともに、保護者への理解の輪を広げていきたい。

(5) 進路指導

系統的なキャリア教育を模索し、生徒が自身の適性を踏まえた選択に資するよう、学校としての体系的な取組を行っていく。

第一希望実現に向けての組織的な体制を更に改善し、個に応じた指導の更なる充実に努める。

(6) 健康・安全

ライフ・ワーク・バランスについて、引き続き業務の効率化を推進していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	3	0	0	0	1	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】なし

8 その他

今回は昨年につきWebでアンケートを実施し、回答率は前年度より増加した。